

◆経済倶楽部講演会第4350回（11月13日）

# イノベーションと科学の同時危機はなぜ起きたのか？

京都大学名誉教授・産学官連携本部特任教授

山口栄一

- \* 1998年の「大事件」を契機に日本に戻る
- \* 日本の学術論文数低迷の理由
- \* イノベーションを生む第3の方法
- \* 持続的イノベーションと破壊的イノベーションの違い
- \* 科学からのイノベーションの重要性
- \* 研究と開発はきちと分けるべき
- \* 創発というと新たな視点を考える
- \* 無視できない中央研究所の役割
- \* 分野の壁を乗り越える回遊がポイント
- \* アメリカでベンチャーの起業が旺盛な背景



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

本日は、京都大学名誉教授の山口栄一教授に  
おいでいただきました。山口さんは1955年  
のお生まれで、東京大学の物理学で博士号を取  
られた後、海外で何カ所か研究員をされていま  
した。日本では同志社大学を経て京都大学で教  
鞭をとられ、ちょうど定年でお辞めになる記念  
公演がコロナで延び延びになったそうござい  
ますが、年明けに、それをされるということ  
でございます。

この倶楽部では経済学を中心にいろいろな方  
にお話しただいておりますが、90年代以降、  
日本の生産性が低下し成長率も低下するとい  
う中で、やはりイノベーションがまったく起きな  
いと。これをどうしたらいいのかということ

いろいろな方にお話を伺ったんですが、明快な  
回答を得られることがありませんでした。何と  
かそういうお話をしていただけの方を探してお  
りまして、やっと山口先生に行き着いたわけで  
ございます。

今日は、そういった理系の出身でおられます  
ので、日本の技術革新というものがなぜ今のよ  
うな状況になったのか、これからどういうふう  
にしたらいいのか、そういったことをお話しし  
ただけるといいことでございます。

それでは山口先生、よろしくお願いいたしま  
す。（拍手）